

## 住まいの適切な手入れに関する研究（第8報）

## —— 最近の消費者相談の解析 ——

花王生活科学研 ○柴田 久美子 中川 雄之介 重弘 文子

〔目的〕家屋や住設機器，生活者の意識や行動等の住生活をとりまく環境は，様々に変化している。このような変化に対して「住まいの手入れ」に関わる行動がどのように変化してきたか，また，どのような疑問が持たれているのか等を明らかにすることを目的として，最近の消費者相談内容の解析を行った。

〔方法〕1991年1年間に，花王生活科学研究所の消費者相談室によせられた相談の中で，住まいの手入れに関わる相談約2300件の内容を，汚れや洗剤，対象物（材質）等で分類し解析を行った。

また，5年前に解析した結果\*<sup>1</sup>と比較検討を行った。

〔結果〕①相談の内容は，大きくは「洗剤の性能や使い方」，「汚れの落とし方」，「対象物や材質への影響」に関するものに分類される。これは5年前の傾向とほぼ同じである。②場所別では，台所，浴室・洗面所での相談が特に多い。③相談の多い汚れは，カビ，油汚れ，黒ずみ等である。汚れの種類は同じでも，汚れがつく対象物やその材質が変化してきている。

住居形態，生活スタイルの変化に即した手入れ方法を検討していくことが大切である。

\*）日本家政学会第39回研究発表要旨 P194（1987年）